

平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	ひろさき囲碁まちづくり実行委員会	職名	事務局	助成金額	300,000 円
氏名	秋元秀樹 印	メール アドレス	hidmak@gmail.com		

研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）

社会人向け囲碁入門環境整備事業

助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）

【背景】

弘前市は、全国でも珍しい3名のプロ棋士（工藤紀夫九段、黒滝正憲八段、黒滝正樹六段）を輩出する都市（青森県では唯一）である。これは弘前市が県内でも特に高い文化的風土を備えている証でもある。

しかし近年は、全国的な囲碁人口の減少問題に弘前も直面している。日本棋院弘前支部の支部会員も加入者数が伸び悩む一方で高齢化が進んでいる。

弘前の歴史の中で培われてきた伝統の一端を示す囲碁文化を後世に伝えていくことは、市の文化性および国の伝統を守るためにも重要な課題である。

この解決のため、社会人向けの定期的な囲碁入門教室を実施することで、上記の課題解決の一端を図るものである。

【実施】

2016年10月4日、10月11日の両日6時間にわたって第1回目の囲碁入門教室を山道町囲碁クラブ内において開催した（写真1）。

参加者は市内在住の4人の主婦（40～60代）で、もともと囲碁に関心のあった人や誘われて付き添いで、という人などさまざまだが、ほとんどがアルファGOとイセドルの対局のニュースを知り、碁を学びたくなった、という共通点があった。

講師には日本棋院弘前支部の支部員2人に依頼している。

初日は初心者用の9路盤・13路盤を使用してのルール解説および講師陣との練習対局、2日目はプロが使用する19路盤を用いての本格的な実践対局を行った。

習得が難しいと思われがちな囲碁であるが、十分な時間と専念できる環境があれば、大人であればごく短時間で囲碁の面白さの本質を理解してもらえることが参加者の声から伺われた。

【今後の課題】

第一回目の囲碁教室は女性、特に主婦層に限定した実施となったが、事業の目的としてはより広い範囲（特に20～40代の社会人）に囲碁普及を図るものであるため、この層への参加アピールを行っているが残念ながら集客の成果が思うように上がっていない。

一方で参加した女性陣はその後も囲碁に関心を抱き続け、その後も個人的に碁を学びに打ち続けに来る人もいるため（写真2）、引き続き同じ企画を継続することで囲碁人口を増やす可能性を追求したいと考えている。



写真1



写真2

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）

発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)

(管理番号: )